すずの郷新聞 第108号

内田和枝さん
縁日の間はずっとニコニコ。金魚すくいにも挑戦!!翌日も覚えておられ「楽しかった？」に「はい!!」と。「何食べた？」に「おにぎり!!」「何個食べた？」「２個!!たらこと昆布」と感想を話して下さいました。

森山久子さん
久しぶりにビールを飲んで美味しかったです。お祭りなんて久しぶり。楽しませていただきました。

8月29日（土）『すず縁日2020』を行いました。

毎年恒例の夏祭り。例年なら、ご家族の皆さん、地域の方、ボランティアさんなど総勢500人程の夏祭りを開催していましたが、今年はコロナの影響で、入居者さんとスタッフでのみで行いました。ご家族をお招きできないことと、３蜜を避けるため、規模を縮小せざるを得なかったのですが、規模は縮小しても、入居者さんには例年と変わらず楽しんでいただけるよう工夫をして開催しました。

試行錯誤の中で行いましたが、当日は皆さんのいつもと変わらない笑顔を見ることができ、嬉しく思いました。

今月の新聞は、縁日でのお年寄りの笑顔をお届けします。

鈴木信義さん
外に出て花火やファイヤーダンスを楽しまれました。ファイヤーダンスで手拍子をし、皆さんと一緒に最後まで打ち上げ花火を見上げておられました。

施設長のひとこと

今回は、全面８月29日「すず縁日」の記事です。お年寄りの皆様と、スタッフのみではありましたが、盆踊り、屋台、ダンス、花火と楽しんでいただきました。

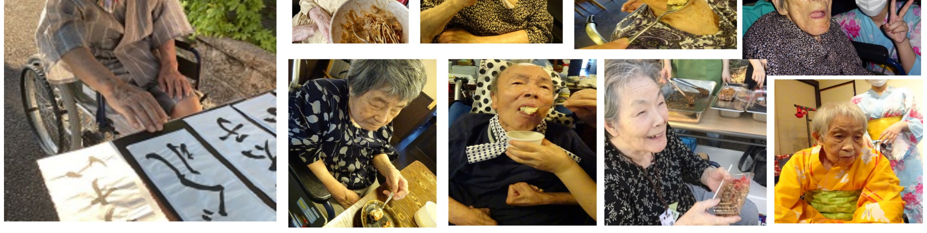
また、武光観光のお出掛け企画につきましては、大変残念ですが、来春まで中止とさせていただきます。

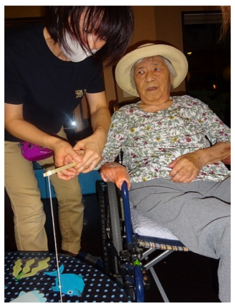
ご家族の皆さまと共に開催できる日をスタッフ一同、心待ちに致しております。

氏永一子さん
お祭りなんて久しぶりで良かった。屋台を見たり、いつもより沢山歩いたけど全然平気だったよ。楽しかったからかな（笑）

後藤富子さん
今年はサムイっていうの？いつもと違う服を着せてもらって可愛かったよ～!!家族にも見せたいな。来年は家族で参加できるといいな。みんなで食べるといつもの10倍美味しいよ!!

竹下辰男さん
これもこれも美味しいから、毎日こんな食事が食べれるといいな～。皆に感謝です。これからも色んなイベントやってよ～。

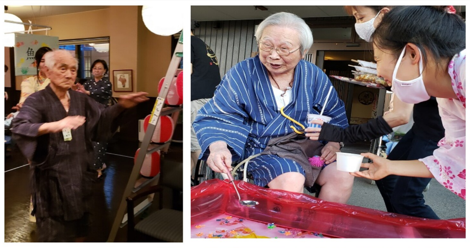




今月のベストショット

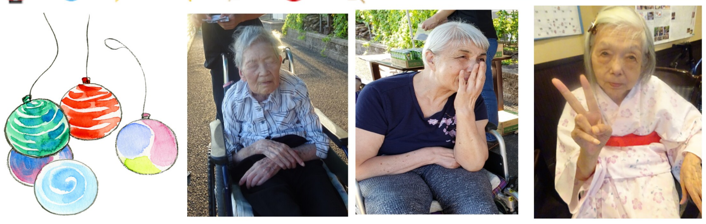
林齢春さんのリクエストによる、たこやき作り。102歳の宮田スナヲさんは12個ペロリ。みんな食べる食べる!!予定の100個では足らず追加して200個焼きました。飯田英子さんは焼くのに夢中。２時間立ちっぱなしで焼いて下さいました。

田中キワさん
コロナ禍でできると思ってなかったので、参加できてとても楽しかった。特に屋台で色々なお買い物ができたことが一番嬉しかったです。



松本イワ様
ファイヤーダンスに「わー。凄いねぇ」と感動。昔、息子さんが通われていた学校のお祭りを思い出されたそうです。

内田秀子さん
夕方縁日が始まるとニコニコ元気がでてきてテンションが高い秀子さんでした♪

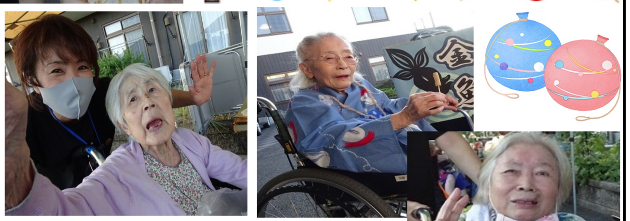


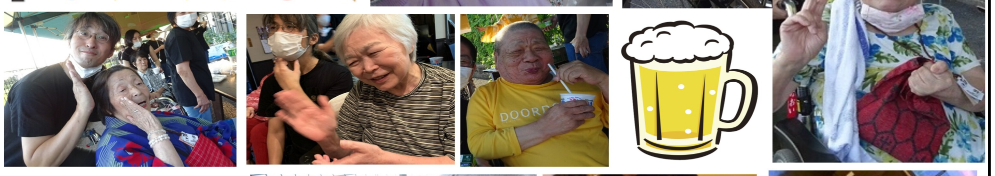
三好マサヱ様
屋台では、たくさん買って食べきれなかったけど、金魚すくいは、つい真剣になってしまったよ。

武田君子さん
「早よ、行こう」と屋台が始まる前から、楽しみに。五平餅の屋台では「10本ちょうだい！娘にもあげる！」と言われていました。

佐藤明子様
「何が食べたいですか？」と聞くと「五平餅！」と言われ、完食されました。踊りやファイヤーダンスを見ている時も、手でリズムを取っておられました。

樋田ふみ子様
次の日「昨日は楽しかったなぁ～。焼きそばが一番美味しかったな」と思い出しておられました。





初めてのファイヤーダンス

毎年恒例。新人スタッフによるファイヤーダンスを行いました。暑い中の練習は大変でしたが、とても楽しかったです。また凄く貴重な体験でした。
7月下旬から基礎練習を始め、8月中旬からそれぞれのパートの練習や全体的な動きを覚えました。曲はディズニーのエレクトリカルパレードです。キャラクターのセリフで動きや振付が変わるため、どのセリフでどの動きをするのかが難しかったり、前日の実際に火をつけての練習は、ただただ暑さとの戦いでした。
今、お年寄りの皆さんが外出できない中、すず縁日のファイヤーダンスを見て少しでも楽しんでいただけたことが何より嬉しかったし、終わってから、「ここ数年で一番感動した」と涙を流してくださったと伺って益々やって良かったと感じました。

（伊藤佑華）

踊り隊として盆踊りに参加して

今年の盆踊りは、室内で行いました。浴衣や甚平を着たお年寄りがたくさん参加して下さり、縁日のイベントを楽しみにして下さっていたのだと伝わってきました。盆踊りが始まると、一緒に踊りの輪に入られたり、歌を歌われたり、手拍子をして身体を揺らしたりと、様々な楽しみ方をしておられました。市松ユニットの後藤富子さんは、踊りの練習の時より当日は、笑顔で手を動かされ、ダンシングヒーローの時は「フゥー」と声を上げて喜んでおられました。亀甲の塚本辻夫さんは、踊りの練習に毎回参加され、当日もやる気満々で輪に入って真剣なお顔で、時には笑顔で踊ってくださいました。普段の生活では見られなかった心が弾んでいる笑顔を見せていただき、今を楽しんでくださっていると感じて、とても嬉しかったです。

（木村優花）